

REPORT.3

黑白写真の制作 ③ [引き伸ばしと黑白印画紙]

まえがき

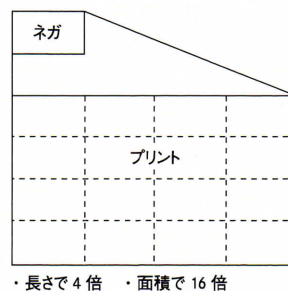
撮影したフィルムを現像処理し、ネガ画像(フィルムネガ)をつくったら、次にこの画像を引伸機で印画紙に拡大焼付けしてプリントをつくる。拡大焼付けするには、引き伸ばしレンズ(凸レンズ)を用いて、ネガ像を印画紙の感光面に拡大、ピント合わせ、露光し、これを現像処理して印画紙の感光層にポジ画像をつくる。これがプリントである(図●)。

引き伸ばしプリント作業は、たとえば一連の作品を制作するなど、同じ作業の繰り返しの要素が強い。そのため、自分流のやり方を決めて行いたい。常に同じ作業を繰り返すことができれば最良である。毎回やり方が違うと、仕上げる作品の制作作業に影響がでるだろう。

引き伸ばしプリントは、ある期間を継続的に行うことが多いので、いつも同じ結果を得るために自分専用の暗室で、専用の機器と器具を使って作業することが望ましい。常設でも仮設でも、自前の暗室を設備できれば理想的だ。

引き伸ばしに使う感光材料である印画紙は、遮光したパッケージで販売されているが、使用のときはパッケージから印画紙を取り出す(遮光されない状態になる)ため、この作業には暗室が必要である。

図① 引き伸ばしプリントの拡大率



K 引き伸ばしと黑白印画紙

1 引伸機

引伸機とは、撮影してつくったフィルム画像(ネガまたはポジ)を、引き伸ばしレンズ(凸レンズ)を使用して、印画紙に正確に拡大焼付けする機器である。その構造はスライドプロジェクターと似るところがある。

写真の制作がデジタル化してフィルムカメラの使用が少なくなった今、引伸機の需要も減少し機種が少なくなっている。今後、引き伸ばしを自分の手で行う予定の場合は、適当な機種を選択して購

入しておく。または、今使用している引伸機があれば、整備して大切に、長く使うことを考えておく。引伸機は、持ち歩きする機器ではないので、暗室に設置したあとの移動は少ないので大切に使える長持ちする。

1) 引伸機の構造

引伸機の基本構造を(図②)に示す。実際に製品化されている引伸機には、光源(電球)から発した光がどのような光質になって印画紙に露光するかで、集光式、集散光式・散光式がある。現在、製品として主に使われているのは、集散光式と散光式である(図③)。仕上がるプリントの階調やシャープネスの見え方、ネガ上のごみの写りこみの程度などに違いがある。

販売されている引伸機にはカラー写真プリント用と黑白写真プリント用がある。引伸機は、最初に黑白写真用が登場し、その後カラー写真の普及に伴い、カラー写真用の引伸機が登場して、現在では両方が製造販売されている。

カラー写真用引伸機は、黑白写真用を基本構造にして、露光に使用する色補正用フィルターを装着できるかもしくは、フィルターを組み込んである。黑白写真用引伸機には露光する光源(タングステン電球かハロゲン電球)の発する熱を防止する防熱フィルターが組み込まれているが、カラー写真用引伸機にはない。集散光式のコンデンサー(通常は防熱のため着色あり)タイプ引伸機の場合は、カラー写真引き伸ばし用としてクリアーなガラスのコンデンサーレンズを使う。

黑白印画紙は、号数付に加え、多階調タイプが普及したため、これに対応する引伸機が製造販売された。この引伸機も、フィルターをセットする機構を持つか、あるいは印画紙の号数を変化させるためのフィルターを備えたものとなっている。黑白写真用に製造された引伸機(集散光式)とカラー写真用に製造された

C O N T E N T S

REPORT.3

黑白写真の制作 ③ [引伸しと黑白印画紙]

■引き伸ばしと黑白印画紙	27
引伸機	27
引き伸ばしレンズ	29
暗室と引き伸ばし作業に使用する器具	29
引き伸ばし操作	32
黑白印画紙と取り扱い	35
まとめ	37
参考	38